

第2回甲賀市選挙事務不適正処理再発防止委員会

日時：平成30年4月16日（月） 午後1時30分～午後3時10分

場所：甲賀市役所3階301会議室

出席者：小島委員長、山本委員、森地委員、漣委員、岩瀬委員（再発防止委員会）

松山委員長（選挙管理委員会）

伴事務局長、山元書記、山下書記、松岡書記、前田書記、藤谷書記、小高書記
（事務局）

【主な発言】

- ・テキストに関して、誰がするのかという部分をもう少しわかりやすく明記してもらいたい。投票箱が空であることを確認する係はあるが、全ての投票箱が空になったかを確認する係も明確にしてもらいたい。
- ・投票所から投票箱が送致された際に、まずは全ての投票箱を受領したかを、入口のところで十分にチェックする必要がある、そのチェック体制が必要だ。第1投票区から順番に持ってくるわけではないので、ランダムに持ってこられたときに対応できるチェック体制でないといけない。
- ・今回の事例は、投票箱がひとつ空いていなかったというものであり、所定の投票箱を所定の開被台の上に置くのがきっちり定まって実行されれば空かないということはない。どの係がどの投票箱の担当かというところを明確に示した方が良い。
- ・マニュアルは誰が見てもそうだとその理解を助けるようなもので、読んでわかるものでなければならない。作った人がわかっても見る方がわからないと意味がない。選挙をやった事がない人に見てもらってわかってもらうという事が大事だと思う。
- ・白票管理マニュアルについては、主語が混同していたり、分りにくかったりするので、わかりやすく改良してもらいたい。
- ・台風の対応など不測の事態が生じたときに、人員の入れ替わり等もあると思う。そのような場合でも柔軟な対応が出来るように、色々な場合を想定して検討いただきたい。台風や衆議院の解散なども考えられる中で、ある人が対応できなくなった場合、次は誰が対応するのか等のバックアップ体制が必要だ。
- ・腕章や服装については、開票事務従事者だけでなく、投票箱を送致するために来る職員や開票立会人なども同様に、その場に入ってもよい人だとわかるようにしていただく必要がある。
- ・選挙の経験が長い人は自己流が出る。それは戒めないといけない。基本に帰るということを全てに徹底していく必要がある。
- ・選挙事務に従事する職員に対して、選挙事務は頼まれ仕事ではなく、法定受託事務であり、自分たちの第二の仕事であるという意識の醸成をしてもらいたい。選挙は制度として選管だけでやるものではなく、市町全体でやることを想定している。全体で開票のリハーサルをするということであるが、これが職員の任意参加というのでは成り立たない。
- ・何か問題が起こったときは、コンプライアンス担当に早めに情報を集約して、包み隠さず場内アナウンスなどを用いて周知することが必要だ。

- ・テキストやマニュアルの作成では、井の中の蛙ではいけないので、他都市の様々な事例を研究し、良いものがあれば取り入れる事が必要である。テキストの作成にあたっては複数の人間のチェックをすることで、問題点などに気づく事が出来る。人手が足りないとそのようなチェックも難しくなるので、人員配置も考えていただきたい。
- ・現在のテキストでは知事選挙となっているが、前回と同じように、突然衆議院の解散などにより同日選挙となることがあるかもしれないということを念頭において、会場なども考えてもらいたい。前は同日となった時点で開票会場が狭いと感じていたにも関わらず、他の施設でオンライン体制がとれないことなどから変更が出来なかった。余裕のあるうちにそのようなオンライン体制についても検討しておけば、開票会場も変更できたのではないか。
- ・開票事務テキストにおいては、開票録の記載例も入れたほうが良い。開票録は誰もが書けないといけないものなので、その辺りも想定して作成いただきたい。
- ・投票者総数と白票の残りが合わなかった時に、どの数字を使うかというところをあらかじめ決めておかないと開票所で混乱を招く。投票者総数と投票総数があわなかった時にどのようにチェックしていくかという考え方を整理していかないといけない。齟齬が生じた場合は、票が落ちていないか、投票箱に残っていないか、投票録に計算ミスがないか、白票に計算ミスがないか、効力を決定した票束が正しく計数されているか等を、もう一回点検することになると思う。それをどのようにルール化していくかが大事だ。そのチェックに対しては進言する人が必要で、それは、事務局長の前のコンプライアンス担当職員であり、専門知識というよりは市民としての平均的な感覚でそのケースにおいてチェックすべきかどうかという判断になると思う。
- ・今回のような事件は、ミスを隠そうとして起こるものであるから、ミスを起こらないようにしないといけない。そのためにはミス発生事例集のようなものを作成し、職員に配布し徹底すべきだ。特に、投票所のミスは選管書記ではなく一般職員がするものなので、そのような意味でも全職員に徹底する必要がある。
- ・選挙の開票事務従事者と防災関係の仕事をする人を分けるべきだ。別にしておかないとどちらも中途半端になってしまう。選挙と防災が重なる今回のようなケースでも最低人員でどのような仕事出来るかのシミュレーションをしておく必要がある。
- ・期日前投票において、市議選の後に国政の投票をするまでに列が出来ていたと聞く。今後は最初の受付で整理して、中で渋滞しないように、開票だけでなく投票事務テキストも見直してもらいたい。
- ・各係の責任者が係事務の総括に徹しとあるが、徹底してもらいたい。責任者は事務をするのではなく、全体をしっかりと見てもらいたい。

5. その他

- ・次回の再発防止委員会は、平成30年5月11日（金）13時30分から行う。

以上